

フォト —撮る・観る・想う— PHOTO HIROSE 2018 ひろせ 開催しました♪



クオリティの高い宮城広瀬高等学校写真部の作品は、今年も皆さんが注目していました。



自然豊かなふるさと宮城地区の美しい風景から、皆さんが何気なく歩くいつもの散歩道。人から人へ受け継がれていく地域のお祭りや伝統芸能などの行事、青春時代を過ごした誰かの風景。地域にはあらゆるところに、魅力的な瞬間が散りばめられています。

PHOTO HIROSEは、十人十色、様々な人の感性によって撮られた写真が持つ表現力で、地域の魅力を広めることを目的に2014年の冬から始めたミニ写真展です。地元アマチュア写真家の皆さんに、こうしたすぐ身近にある出来事や、暮らしのなかでの“一瞬”を切り取って、一枚の写真に収めていただきました。



写真展会場を覗くと、まず、アーティスティックな数々の作品が目を見えます。全国写真コンクール等での受賞経験もあり、PHOTO HIROSEでも常に評価の高い「宮城県宮城広瀬高等学校写真部」による写真作品です。10名の部員で活動し、部員各々がテーマを決めて技術を高めるべく、切磋琢磨しながら日々の活動に取り組んでいます。今年の写真展でも、第25回宮城県高等学校写真展で入選した「夏の思い出」や、友人をモデルに撮影した「残暑」など、現代の十代の感性が窺える作品が並びました。



観る方を惹きつける写真をたくさん撮っていきます。



普段は部員同士の仲が良い広瀬高校写真部。しかし写真については、時に厳しい意見も交わされるなど、各々が写真を通じて自分を成長させる大切なものと受け止め撮影活動をしています。

「この場所はどこにあるの?」。こうした質問が広瀬フォトクラブの作品「白瀧観音」に集まってきました。意外な地元の名所を知る。こうした楽しみ方も写真にはあるのかもしれない。



続くエリアでは、地元写真グループの「広瀬フォトクラブ」の皆さんの作品です。こちらは、身のまわりの暮らしのなかでの地域の出来事などを中心に、大変、親しみやすい作品が並びます。以前にはこちらのグループの作品をご覧になり、「自分も写真の趣味をはじめてみようか」と言うお客様から問い合わせを頂戴したこともあります。地域名所を示す標柱を建立したことを記念し披露された伝統芸能の様子を伝えた「お披露目・愛子の龍神太鼓」や、地域に流れるカッパダ川で毎年行われるお祭りでの楽しそうな様子を捉えた「カッパダ川まつり」など、親近感が湧く作品がたくさん展示されています。広瀬フォトクラブの皆さんは、今後もこうした地元で因んだ写真の撮影を増やしていきたいとのことでした。



会場を一巡し最後のエリアは、もうすっかりお馴染みになった「広瀬フォトサークル写楽人(シャラット)」の皆さんの作品です。「毎年ささやかな目標をたてながら、その時の感動が伝わる写真を撮りたい、伝えたい。」という想いをもちつつ、ゆっくりペースで楽しんでいます。今年の目標は”アクティブにチャレンジ”。それぞれが目標を意識しながら撮ることに向きあってきたとのこと。何ををお願いしたのでしょうか。深く頭を下げ願いを込めた女性の姿「お参り日和・定義」や、今まさに出演する舞台を楽しみに待つ子ども達のいきいきとした姿を捉えた「出番待ち・ジャズフェス」、かわいいお地蔵さんが寄り添う秋のひとこま「秋の集い・同慶寺」など、上手に地域の素材を活かし、写真を通じ宮城地区の自然や文化などを楽しみながら、広く、その魅力を伝えていきます。



様々な想いを込めた30作品。多くの方に熱心にご覧いただきました。

広瀬文化センターでは、“マイギャラリーinひろせ”などの運営をもって、お客様や地域の皆様に文化活動発表の場をご提供しながら、施設の賑わいのある空間創出を目的とした“賑わい空間創出事業”を進めています。PHOTO HIROSE はロビー空間を活用して開催しましたが、今後も様々なかたちで、身近な芸術作品を発表する機会のご提供と、賑わいに満ちた文化センターの空間づくりを進めていきますので、どうぞご協力をお願いします。



撮るも観るも、そして、想うも写真の楽しみ方はたくさん。良い写真の定義は一つだけではありません。

- 期 間 平成30年12月4日(火)から12月16日(日)まで
- 場 所 広瀬文化センター(1階ロビー)
- 協 力 宮城県宮城広瀬高等学校写真部
広瀬フォトクラブ
広瀬フォトサークル写楽人
- 来場者 延べ1,500人

